

經營狀況報告書

令和2年度 事業報告

令和3年度 事業計画

豊橋駐車場 株式会社

I 令和2年度 事業報告

1 会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

当会計年度は、コロナ禍により景気は戦後最悪のマイナス成長となりました。感染拡大の懸念から発せられた緊急事態宣言を受けての消費の大幅な落ち込み、更にはソーシャルディスタンスの制約の日常化など、人々の生活スタイルそのものが変化をはじめ、新しい環境が作り出されています。

このような状況下において、弊社を取り巻く環境も厳しく変化しており、近隣では豊橋駅前地区において商業施設の中心的な役割を担っていたほの国百貨店が閉店し、更には広小路通りでの歩行者天国、市民祭りといったまちなかにおいて集客が見込まれる催事のほとんどが中止となりました。そのため、駐車場業において一番の収益をあげる一般時間貸顧客の利用が大幅に減少することとなりました。また、法人顧客先における勤務形態の変化（リモートワーク・営業担当者の自宅から顧客先への直行直帰など）に起因する定期券の販売件数の減少などもありました。このような過去に例を見ない特殊事情が重なったことを受け、今年度の弊社の業績は、売上高で前年に対し27.7百万円が減少する96百万円（前年比77.6%）となりました。

一方の販売費及び一般管理費については、駐車場施設内の老朽化による修繕の実施はありましたが、その費用や取引先の見直しをすることで修繕費を圧縮し、さらに光熱費・消耗品費などの経費を抑えました。結果としては113.5百万円となりました。しかしながら、27.7百万円の売上の減少は大きく響き、営業利益の段階で17.5百万円の損失となり、営業外収益2.8百万円、営業外費用の借入金金利5.1百万円を差し引き、経常利益は19.8百万円の損失、そして法人税及び事業税など3.2百万円を差し引き、最終的に当期純利益は23.1百万円の損失となりました。

(2) 会社が対処すべき課題

ア 弊社は、豊橋市と地元企業等により設立された第三セクターの駐車場経営会社であり、まちなかの賑わい創出のため、豊橋市をはじめ、地元企業等との連携を図りながら諸施策を展開してまいります。

イ 弊社が経営するパーク500は、近年の中心市街地の衰退に加えて、令和2年初頭からの世界的なコロナ禍という特殊な状況のため、第34期は過去に例のない大変厳しい結果となりました。しかし、令和3年度は近隣地区の再開発事業により、大型複合施設emCAMPUSや新設の大型マンション、まちなか図書館といったまちなかの賑わい創出の拠点が出来上がります。この再開発の流れは、2024年頃まで続くことから、弊社は中心市街地における賑わい創出のための補助的使命を持つ公共的施設としてのインフラ整備を進めるとともに、長期的に利便性と安全性を保ちながら経営の健全化に向けてより一層の努力をしてまいります。

ウ コロナ禍を日常とする社会的仕組みも出来上がりつつあることから、定期券の主要顧客

である法人顧客先の勤務形態も今期のような不安定さは少なくなると思われ、再開発による新たな人の流れなど、お客様の生活スタイルを分析して自社商品の販売を拡大し、まちなかのインフラ部門の一つとして貢献してまいります。

(3) 財産及び損益の状況の推移

| | 平成30年度 (第32期) | 令和元年度 (第33期) | 令和2年度 (第34期) |
|-----------|-----------------------------|----------------------------|---------------------------|
| | 平成30年4月1日から 平成31年3月31日まで | 平成31年4月1日から 令和2年3月31日まで | 令和2年4月1日から 令和3年3月31日まで |
| 売上高 | 126,192千円 | 123,785千円 | 96,015千円 |
| 経常利益 | 4,558千円 | 7,158千円 | △19,888千円 |
| 当期利益 | 255千円 | 2,051千円 | △23,134千円 |
| 1株当たり当期利益 | 222円 | 1,788円 | △20,169円 |
| 総資産 | 1,556,752千円 | 1,525,717千円 | 1,509,175千円 |
| 純資産 | 1,148,830千円 | 1,150,881千円 | 1,127,746千円 |

[注] 売上高は、全て消費税を除いて計上

(4) 主要な事業内容（令和3年3月31日現在）

弊社は駐車場法に則り、次のア、イによって地下自動車駐車場の経営を行っています。

ア 駐車時間に応じて1車両ごとに駐車料金を徴収する。

イ 定期駐車券（全日制定期券・夜間定期券）を駐車場の利用状況に応じて販売する（駐車位置は指定しない。）。

ウ 料金設定は、内税方式とする。

(5) 従業員の状況（令和3年3月31日現在）

| 従業員数 | 前年度末比増減 |
|------|---------|
| 10名 | なし |

(6) 借入先（令和3年3月31日現在）

| 借入先 | 借入金残高 |
|----------|-----------|
| 豊橋信用金庫 | 345,000千円 |
| 豊橋商工信用組合 | 30,000千円 |
| 合計 | 375,000千円 |

Ⅱ 令和2年度 決算報告
貸借対照表
(令和3年3月31日現在)

(単位：円)

| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
|-------------|---------------|-------------------|---------------|
| (資 産 の 部) | | (負 債 の 部) | |
| 流 動 資 産 | 62,671,700 | 流 動 負 債 | 16,428,773 |
| 現 金 預 金 | 59,898,035 | 1年内返済予定の長期借入金 | 10,000,000 |
| 売 掛 金 | 304,788 | 未 払 費 用 | 1,988,143 |
| 貯 蔵 品 | 9,143 | 預 り 金 | 93,624 |
| 前 払 費 用 | 1,742,734 | 前 受 収 益 | 124,850 |
| 未 収 入 金 | 717,000 | 未 払 消 費 税 | 976,156 |
| | | 未 払 法 人 税 等 | 3,246,000 |
| 固 定 資 産 | 1,446,503,527 | 固 定 負 債 | 365,000,000 |
| 有 形 固 定 資 産 | 1,446,443,527 | 長 期 借 入 金 | 365,000,000 |
| 建 物 | 1,446,443,527 | | |
| 構 築 物 | 3 | 負 債 合 計 | 381,428,773 |
| 什 器 備 品 | 2 | | |
| 投資その他の資産 | 60,000 | (純 資 産 の 部) | |
| 出 資 金 | 60,000 | 株 主 資 本 | 1,127,746,454 |
| | | 資 本 金 | 1,147,000,000 |
| | | 利 益 剰 余 金 | △19,253,546 |
| | | 繰 越 剰 余 金 | 3,881,157 |
| | | 当 期 純 利 益 | △23,134,703 |
| | | 純 資 産 合 計 | 1,127,746,454 |
| 資 産 合 計 | 1,509,175,227 | 負 債 及 び 純 資 産 合 計 | 1,509,175,227 |

損益計算書

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

(単位：円)

| 科 目 | 金 額 | |
|--------------|------------|-------------|
| 売上高 | | 96,015,241 |
| 売上総利益 | | 96,015,241 |
| 販売費及び一般管理費 | | 113,590,452 |
| 給料賃金 | 24,035,184 | |
| 賞与 | 3,743,000 | |
| 諸手当 | 712,000 | |
| 退職金 | 2,660,000 | |
| 法定福利費 | 2,406,696 | |
| 福利厚生費 | 490,908 | |
| 支払手数料 | 266,804 | |
| 広告宣伝費 | 75,864 | |
| 消耗品費 | 1,281,229 | |
| 会議費 | 93,091 | |
| 新聞図書費 | 52,037 | |
| 事務用品費 | 169,865 | |
| 水道光熱費 | 147,375 | |
| 電力費 | 10,496,867 | |
| 通信費 | 383,526 | |
| 租税公課 | 13,781,319 | |
| 修繕費 | 2,321,575 | |
| 保守管理料 | 1,750,780 | |
| 保険料 | 821,977 | |
| 貸借料 | 4,005,200 | |
| リース料 | 3,000,701 | |
| 減価償却費 | 36,347,401 | |
| 支払管理料 | 1,883,020 | |
| 雑費 | 2,664,033 | |
| 営業利益 | | △17,575,211 |
| 営業外収益 | | 2,823,729 |
| 受取利息及び受取配当金 | 3,293 | |
| 雑収入 | 2,820,436 | |
| 営業外費用 | | 5,137,221 |
| 支払利息 | 5,137,221 | |
| 経常利益 | | △19,888,703 |
| 税引前当期純利益 | | △19,888,703 |
| 法人税、住民税及び事業税 | | 3,246,000 |
| 当期純利益 | | △23,134,703 |

株主資本等変動計算書

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

(単位：円)

| | 株 主 資 本 | | | 純 資 産 合 計 |
|-----------|---------------|-------------|---------------|---------------|
| | 資 本 金 | 利益剰余金 | 株主資本合計 | |
| | | 繰越利益剰余金 | | |
| 前 期 末 残 高 | 1,147,000,000 | 3,881,157 | 1,150,881,157 | 1,150,881,157 |
| 当 期 変 動 額 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 当期純利益金額 | 0 | △23,134,703 | △23,134,703 | △23,134,703 |
| 当 期 末 残 高 | 1,147,000,000 | △19,253,546 | 1,127,746,454 | 1,127,746,454 |

Ⅲ 令和3年度 事業計画

1 事業計画の概要

- (1) 令和3年度は、弊社駐車場の近隣地区である駅前大通二丁目の再開発事業により、大型複合施設emCAMPUSが完成する予定となっております。ここにはマンションや法人事務所が併設されるため、その入居者からの駐車場需要が見込まれ、定期契約車両台数の増加へと繋がることを期待できます。
- (2) 11月からは、まちなか図書館の開業が予定されているため、弊社駐車場の一般時間貸利用者の増加が見込まれ、売上の増収に繋がることが予想されます。
- (3) 今後の駅前周辺におけるまちなかの賑わい創出を目的とした各種催事の再開にあわせ、弊社としては公共的施設としての使命である安全性と利便性を長期的に保つとともに、新たな販売促進施策を打ち出し、増販増客に努め、経営の健全化に向けて、より一層尽力し、地域に貢献してまいります。

IV 令和3年度 収支予算
(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

(単位：円)

| 科 目 | 金 額 | |
|-----------------------|-------------|-------------|
| 売 上 高 | | 119,700,000 |
| 料 金 収 入 | 119,000,000 | |
| 賃 貸 料 収 入 | 700,000 | |
| 売 上 総 利 益 | | 119,700,000 |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 | | 120,000,000 |
| 営 業 利 益 | | △300,000 |
| 営 業 外 収 益 | | 2,000,000 |
| 営 業 外 費 用 | | 4,500,000 |
| 経 常 利 益 | | △2,800,000 |
| 税 引 前 当 期 純 利 益 | | △2,800,000 |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税 | | 1,000,000 |
| 当 期 純 利 益 | | △3,800,000 |